

ことみかい
琴望会
オペラシティ
大正琴 初演コンサート



2018年6月28日(木) 開演 13:00
(開場 12:30)

東京オペラシティ コンサートホール タケミツメモリアル

Tokyo Opera City Concert Hall Takemitsu Memorial

「京王新線 初台駅 下車 東口改札より徒歩4分 東京オペラシティビルに直結」

Program

太陽がいっぱい
上を向いて歩こう
雪が降る
女ひとり
碧空

マイウェイ
希望
津軽のふるさと
四季の歌
春の海

愛のロマンス
シクラメンのかほり
あの素晴らしい愛をもう一度
知床旅情
また逢う日まで ほか

全席指定 1,000円

【チケットのお申込みは 琴望会 事務局 または (株)エムセック インターナショナル まで】

【主催】 琴伝流大正琴 琴望会

【協力】 琴伝流大正琴 全国普及会
東京オペラシティ文化財団
一般社団法人 国際親善音楽交流協会
(株) エムジーユー インターナショナル

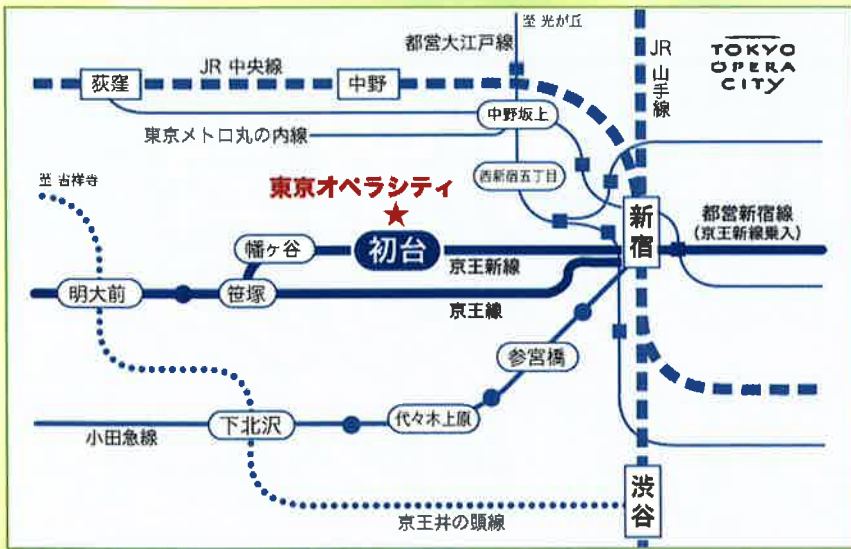
【業務代行】  Music & Cultural Exchange Council International, Inc.
MCEC 髯 エムセック インターナショナル

月～金 9:30～18:00 ※ 土日祝日 休み

〒150-0002 東京都 渋谷区 渋谷 2-8-7 青山宮野ビル 2F

TEL 03-3406-1122 / FAX 03-3406-1125

E-mail info@mcec-inter.com



■ 会場：東京オペラシティ

－ 東京都心の真只中 新宿 －

この地に 国内最高峰のクラシックコンサートホール「東京オペラシティ」があります。国内・海外の超一流アーティストのコンサートが連日開催され、音楽に造詣の深い人々が各地から集まります。

美しい木造りによる素晴らしい音響効果、天窓からあふれる自然光 ― 日本が誇る大作曲家 武満徹(たけみつ とおる)氏が監修した、国内最高峰のクラシックコンサートホールで、記念すべき大正琴 初演コンサートへ皆様のご来場を心よりお待ちしております。

■ 会主：田村 望寿々

琴伝流大正琴 上席大師範、内閣府認定 公益社団法人 大正琴協会 正会員
町田市文化協会 理事

1981年 琴伝流大正琴に入門。

1984年 琴望会を設立、教室を開催し 大正琴 初心者ならびに後進の指導を始める。

同年 第1回 発表会を開催。以後 毎年 自主定期発表会を開催。

(東京都 町田市民ホール、新宿朝日生命ホール、明治安田生命ホール、品川区総合区民会館 きゅりあん、大田区民ホール・アプリコ、狛江エコルマ、神奈川県 川崎市 高津市民会館 ノクティエ、山梨県 桃源ホール などで開催。)



■ 琴伝流大正琴 琴望会

1984年の設立以来、東京都、神奈川県、山梨県を中心に会員数を増やし、現在 45教室 約600名の会員を有する。

田村 望寿々 を中心に、指導者 約50名が生徒を指導、年間通じ 琴伝流 主催の国内大会への出場のみならず、海外公演にも積極的に参加している。

2016年度は 国内 NHK ホールでの琴伝流 全国大会に400名で出場、また 昨年は徳島県での同全国大会 出場、ほかに主催公演や慰問などを精力的に行ってきた。

1990年から現在にかけ、オーストラリア シドニーオペラハウス 大ホール、アメリカ ニューヨーク カーネギーホール 大ホール、オーストリア ウィーン楽友協会 大ホール、ハンガリー ブダペスト リスト音楽院、オーストリア ウィーン国立オペラ座など 世界各地の名だたるホールで公演を重ねる。(ジョイントコンサート、選抜メンバーのみ出演。) 上記会場のほか、カナダ、マレーシア、フィリピン、中国、台湾、韓国、アメリカ アイダホ、ハワイなどで親善コンサートに出演、大正琴 初見の地での認知やその普及に励んできた。

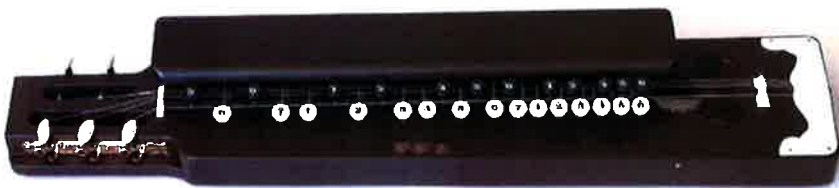


2015年4月 NY カーネギーホール公演の様子

■ 大正琴

明笛奏者の 森田 吾郎 により、1912年(大正元年)に発明された。大衆楽器として、タイプライターのキー構造と、二弦琴(八雲琴)の構造を掛け合わせて生み出された。

木製の胴に2-12本の金属弦を張り、簡単な鍵盤(キー)を備え、鍵盤を左手で押さえて右手の義甲(ピック)で弾いて演奏する 琴(弦楽器)の一種。



大正琴専用の数字譜があり、五線譜の読めない人でも演奏ができる手軽さから、広く庶民に親しまれ、大正期には 子女のいる家庭には必ず置かれ、海外輸出も広く行われたが、戦争下の影響もあり、一時 製造・流通が減少。

作曲家 古賀 政男 により、1965年以降 再び注目される。

哀愁をおびた独特のメロディーにひきつけられた愛好者も増え、多くの大正琴教室が開かれるようになる。

1970年代には、大正琴レッスンの本格化に伴い様々な流派が立ち、同時に パート別の大正琴の開発も進み、それまでの独奏から、現在主流になっている合奏が採用されることが増え、以後 これが 大正琴演奏の基本形となる。

現在の演奏においては、楽器内に内蔵されたマイクで音を拾い、アンプを通じて音を出すことが一般的である。

琴伝流では、ソプラノ、アルト、テナー、ベースの4パートでのアンサンブルが中心となっている。